

国際科目

アカデミックリテラシー

前期・選択・2単位

Academic Literacy

担当教員 長野真紀、高台泳、佐藤優、森岡希世子

対面・遠隔の別

対面

授業の目的と到達目標（学修成果）

アート・デザイン領域の修士研究（論文・作品）に必要なアカデミックリテラシーの基礎を学び、論文執筆や口頭発表に必要な能力の向上を図る。

授業の概要（内容）

学術研究では、着想、先行研究調査、理論的考察、調査・実験・検証、論文執筆、口頭発表を行う能力が必要となる。本授業では、論文の書き方（2～4回）と各専門分野の基礎的な技法や作法（5～13回）を講義と演習を交えながら進める。各自の研究テーマに沿った計画書の書き方とプレゼンテーションの手法を学び、発表と質疑応答の演習（14～15回）を通して、論文・作品制作に必要な創造力と発想力を言語化する能力を身につける。

授業計画

- 1：関連学会・協会等と論文や作品の発表方法について
- 2：研究や作品の意義を伝える論文の書き方
- 3：学会論文の書き方
- 4：修了研究のまとめ方
- 5：研究の有用性と新規性
- 6：史料の扱い方
- 7：建築系フィールドワークの手法
- 8：現代クラフト研究の特徴と発表手法
- 9：現代クラフト研究の実例+グループディスカッション①
- 10：現代クラフト研究の実例+グループディスカッション②
- 11：プレゼンテーション資料の作り方
- 12：プレゼンテーション資料の実例分析
- 13：プレゼンテーション資料の作成
- 14：研究発表+質疑応答①
- 15：研究発表+質疑応答②

評価方法

到達目標の達成度およびディスカッション、発表の内容を総合的に評価する。

その他

個人用ノートPCとプレゼンソフト（Power Point または Keynote）があることが望ましい。所有していない場合は、初回の授業で申し出ること。

イングリッシュプレゼンテーションⅠ

後期・選択必修・2単位

English Presentation I (Intermediate)

担当教員 栗原典子、アラル・ケンザ宝

対面・遠隔の別

遠隔、状況により対面のハイブリッド型

遠隔の場合の主なツール

Teams

授業の目的と到達目標（学修成果）

アカデミックプレゼンテーションの基本スキルを身につけ、英語による論理的なプレゼンテーションができる力を獲得する。

授業の概要（内容）

英語によるプレゼンの指導を通じて、アカデミックプレゼンテーションの構成、プレゼン原稿のメッセージ性、伝わりやすいPowerpoint、口頭プレゼン技術などグローバルコミュニケーションの基礎スキルを身につける。

授業計画

- 1：オリエンテーション：アカデミックプレゼンテーション構成について/自己紹介文を英語で書く。
- 2：アーティストとしての自分を英語で紹介する。
- 3：自分の好きな（尊敬する）アーティストを英語で紹介する。
- 4：自分の専門分野について英語で紹介する。
- 5：芸術・工学分野の英語での発表Aを見て、それに対する自分のコメント及び質問を日本語及び英語で行う。
- 6：芸術・工学分野の英語での発表Bを見て、それに対する自分のコメント及び質問を日本語及び英語で行う。
- 7：芸術・工学分野の英語での発表Cを見て、それに対する自分のコメント及び質問を英語で行う。
- 8：芸術・工学分野の英語での発表Dを見て、それに対する自分のコメント及び質問を英語で行う。
- 9：自分の研究についてアウトラインと要約を英語で説明する。
- 10：自分の研究について発表の原稿を英語で書く。
- 11：英語の発表原稿のフィードバックを受け、書き直す（期限内に提出）。また、発表の音声データも提出する。
- 12：英語の発表原稿の最終チェック（ピア・フィードバック、個別指導）/データ提出物の最終チェック
- 13：英語によるプレゼンテーション（リハーサル）
- 14：英語によるプレゼンテーション
- 15：今後の研究発表に向けて：まとめ、振り返り

授業時間外学習

自分の専門分野の英語の文献を手取る習慣をつけておくこと。またGlobalCafeなどでネイティブによる英文原稿のproofreading、発音チェックをしておくことが望ましい。

評価方法

英文原稿:40%、授業中の態度:20%、口頭発表(3-5分):40%(提出期限が守られているかという点も評価の内に含む)

指導方法

プレゼン作成のプロセスにおいて個別のフィードバック、さらに最終回に行う口頭発表の際に全体講評を行う。

使用テキスト

随時指定、配布する。

参考テキスト・URL

増補改訂版 はじめての英語論文 引ける・使える パターン表現 & 文例集、和田 朋子著、すばる舎
最新 英語論文によく使う表現 基本編、崎村 耕二著、創元社
最新 英語論文によく使う表現 発展編、崎村 耕二著、創元社
101 Design Methods: A Structured Approach for Driving Innovation in Your Organization Vijay Kumar, 2012/10/19

各自準備物

英語のプレゼンテーションに必要な素材は、指示に従って各自で準備する。制作を行う授業には、各自のパソコン等を持参すること。その他

様々な機会を生かして、英語を用いるシンポジウムや特別講義等への参加を履修者に義務付ける場合がある。授業内容とスケジュールは、演習課題の進展状況を見ながら必要に応じて適宜調整する場合があるので、連絡や掲示に十分注意すること。

イングリッシュプレゼンテーションⅡ

前期・選択必修・2単位

English Presentation II (Advanced)

担当教員 栗原典子、三崎敦子

対面・遠隔の別

基本対面授業であるが、状況に応じてオンライン授業に切替わる場合もある

遠隔の場合の主なツール

Teams

授業の目的と到達目標 (学修成果)

グローバル化およびデジタル化が進み、国や分野を超えて協同で創作に取り組む場面が増える今日において、芸術工学分野に携わる一員として、自身の作品の主旨や制作手法などを言葉で相手(聞き手、観衆)が理解できるように伝えるためのコミュニケーション能力が必須である。このような状況を踏まえ、本授業では芸術工学分野で必要とされる論理的かつ実践的な英語コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を養うことを目指す。

授業の概要 (内容)

本授業では上記目的の達成に向けて、芸術工学分野で活動する際に必要となる実践的な英語コミュニケーションについて、その種類やパターンを理解した上で、情報を発信できるようにするため、「読む」「聴く」「書く」「話す」の4技能を総合的に学ぶ演習中心の授業を行う。最終課題として自身の作品に関するプレゼンテーションを英語で行う。

授業計画

- 1: オリエンテーション: アカデミック・プレゼンテーションにおける論理性について/自己紹介文及び、自分の研究概要を英語で書く。
- 2: 芸術・工学系の文書(論文等)を読み、その構成を学ぶ。(abstract,introduction,etc.)
- 3: 芸術・工学系の文書(論文等)を読み、その構成を学ぶ。(method,etc.)
- 4: 芸術・工学系の文書(論文等)を読み、その構成を学ぶ。(results,etc.)
- 5: 芸術・工学系の文書(論文等)を読み、その構成を学ぶ。(discussion,etc.)
- 6: 芸術・工学系の文書(論文等)を読み、その構成を学ぶ。(conclusion,etc.)
- 7: 英語論文をプレゼンテーションの形に変換する。
- 8: 英語論文のプレゼンテーションを発表する。質疑応答も英語で行う。
- 9: 自分の研究についてアウトラインと要約を英語で説明する。
- 10: 自分の研究について発表の原稿を英語で書く。
- 11: 英語の発表原稿のピア・フィードバックを行い書き直す。(期限内に提出)また、発表の音声データも提出する。
- 12: 英語の発表原稿の教員によるフィードバック(個別指導)と、データ提出物の最終チェック
- 13: 英語によるプレゼンテーション(リハーサル)
- 14: 英語によるプレゼンテーション
- 15: 今後の研究発表に向けて: まとめ、振り返り

授業時間外学習

自分の専門分野の英語の文献を手取る習慣をつけておくこと。また、GlobalCafeなどでネイティブによる英文原稿の proofreading と発音チェックをしておくことが望ましい。

評価方法

課題: 40%、授業中の態度: 20%、口頭発表: 40%(提出期限が守られているかという点も評価の内に含む)

指導方法

プレゼン作成のプロセスにおいて個別のフィードバック、さらに最終回に行く口頭発表の際に全体講評を行う。

使用テキスト

随時指定、配布する。

参考テキスト・URL

101 Design Methods: A Structured Approach for Driving Innovation in Your Organization Vijay Kumar, 2012/10/19

増補改訂版 はじめての英語論文 引ける・使える パターン表現 & 文例集、和田 朋子著、すばる舎

最新 英語論文によく使う表現 基本編、崎村 耕二著、創元社
最新 英語論文によく使う表現 発展編、崎村 耕二著、創元社

英語でアート、佐藤美、宮本由紀共著、発行所 株式会社マール社

各自準備物

英語のプレゼンテーションに必要な素材は、指示に従って各自で準備する。製作を行う授業には、各自のパソコン等を持参すること。

その他

様々な実践の機会を生かして、英語を用いるシンポジウムや特別講義等への参加を履修者に義務付ける場合がある。授業内容とスケジュールは、演習課題の進展状況を見ながら必要に応じて適宜調整する場合があるので、連絡や掲示に十分注意すること。

ジャパニーズコミュニケーションⅠ

前期・選択・2単位

Japanese Communication I (Intermediate)

担当教員 小松麻美、高倉瑞穂

対面・遠隔の別

対面授業

※原則、対面とするが、コロナ禍の状況によっては遠隔授業で対応する。

遠隔の場合の主なツール

※遠隔授業になった場合には、必要に応じて担当教員からツール(TeamsやZoom等)を指定する。

履修制限等

「ジャパニーズコミュニケーションⅠ」は留学生のみ受講できる。ただし、協定校及びクムルス加盟校対象留学生国外受験入試入学者は、2単位を選択必修とする。

授業の目的と到達目標 (学修成果)

読む・書く・聞く・話す力を養い、学術的なテーマについて「自分の意見を述べる」「相手の意見にコメントする」総合的な会話を習得することを到達目標とする。

授業の概要 (内容)

日本語を母国語としない留学生を対象に、アカデミックな場面での日本語によるコミュニケーション(グループディスカッション、研究発表会など)の基礎的な能力を身につける。日本語を使って自分の考えを伝えることができるよう、具体的な研究内容や制作活動に適切な表現を学ぶ。各自の研究テーマに沿った知識や情報を伝える表現力と、場面や状況にあった対話力の向上を目的に、実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。

授業計画

- 1: オリエンテーション、全体ガイダンス
- 2: 文章作成・発表① 時制
- 3: 文章作成・発表② 因果関係
- 4: 文章作成・発表③ 列挙
- 5: 文章作成・発表④ 主張
- 6: グループディスカッション①
- 7: グループディスカッション②
- 8: グループディスカッション③
- 9: グループディスカッション④
- 10: 研究計画書作成① 目的
- 11: 研究計画書作成② 内容
- 12: 研究計画書作成③ 視点
- 13: 研究計画書作成④ 方法
- 14: 研究計画口頭発表① 質疑応答
- 15: 研究計画口頭発表② 質疑応答

授業時間外学習

日本語による読み・書き・会話を日常的に学習する習慣を身につけておくこと。

評価方法

課題提出60%、口頭発表及びディスカッションへの参加40%

指導方法

- ・提出された課題にコメントをつけて返却する
- ・口頭発表については講評を行う。

使用テキスト

適宜資料を配布する。

各自準備物

辞書

その他

- ・授業内容は受講生の興味関心・必要度に応じて変更する可能性がある。
- ・授業を休む/休んだ場合はできるだけ早く連絡すること(電話・メール可)。

ジャパニーズコミュニケーションⅡ

後期・選択・2単位

Japanese Communication II (Advanced)

担当教員 小松麻美

対面・遠隔の別

対面授業

※原則、対面とするが、コロナ禍の状況によっては遠隔授業で対応する。

遠隔の場合の主なツール

※遠隔授業になった場合には、必要に応じて担当教員からツール（TeamsやZoom等）を指定する。

履修制限等

「ジャパニーズコミュニケーションⅡ」は留学生のみ受講できる。ただし、協定校及びクムルス加盟校対象留学生国外受験入試入学者は、2単位を選択必修とする。

授業の目的と到達目標（学修成果）

読む・書く・聞く・話す力を養い、学術的なテーマについて「自分の意見を述べる」「相手の意見にコメントする」総合的な会話力を習得することを到達目標とする。

授業の概要（内容）

日本語を母国語としない留学生を対象に、アカデミックな場面での日本語によるコミュニケーション（グループディスカッション、研究発表など）の基礎的な能力を身につける。日本語を使って自分の考えを伝えることができるよう、日本文化に関わるテーマを取り上げ、調査・分析・発表する方法を学ぶ。各自の研究テーマに沿った知識や情報を伝える表現力と、場面や状況にあった対話力の向上を目的に、実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。

授業計画

- 1：オリエンテーション：授業の概要及び到達目標の確認
- 2：レジュメの書き方、グループディスカッション
- 3：テーマ1：テーマを決める
- 4：テーマ1：調査・分析
- 5：テーマ1：情報整理
- 6：テーマ1：発表①
- 7：テーマ1：発表②
- 8：グループディスカッション
- 9：グループディスカッション
- 10：テーマ2：テーマを決める
- 11：テーマ2：調査・分析
- 12：テーマ2：情報整理
- 13：テーマ2：口頭発表①
- 14：テーマ2：口頭発表②
- 15：全体のまとめ

授業時間外学習

日本語による読み・書き・会話を日常的に学習する習慣を身につけておくこと。

評価方法

課題提出60%、口頭発表及びディスカッションへの参加40%

指導方法

- ・提出された課題にコメントをつけて返却する。
- ・口頭発表については講評を行う。

使用テキスト

適宜資料を配布する。

各自準備物

辞書

その他

・授業休む／休んだ場合はできるだけ早く連絡すること（電話・メール可）。